

vol. 282

Spring 2026

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

Contents

02 「あした」につなぐ「いま」

佐々木 泰子
お茶の水女子大学長

04 お茶の水女子大学の研究

伊藤 貴之 基幹研究院自然科学系 教授
市 育代 基幹研究院自然科学系 教授

08 教員紹介

脇田 彩
基幹研究院人間科学系 准教授

09 卒業生紹介

村田 美七海 さん
文教育学部人文科学科比較歴史学コース 卒業

10 附属学校園からのお知らせ

お茶の水女子大学いずみナーサリー

「あした」につなぐ 「いま」

— お茶の水女子大学という時間 —

お茶の水女子大学は昨年、創立150周年を迎えました。そして11月29日の創立記念日には、「徽音堂」で創立150周年記念式典「未来につなぐ」を開催いたしました。式典には、各界からのご来賓、本学学部生・大学院生及び卒業生など、対面・オンラインあわせて840名もの多くの方々にご出席いただきました。

式典は、まず文教育学部芸術・表現行動学科によるオープニングパフォーマンス、校歌斉唱で厳粛かつ華やかに始まり、私の開式挨拶に続き、ご来賓の文部科学大臣 松本洋平様(同省高等教育局長 合田哲雄様ご代読)、一般社団法人国立大学協会会長 東京大学総長 藤井輝夫様、コッレージュ・ヌオーヴォ Paola BERNARDI学長、ストラスブール大学 Frédérique BERROD学長、一般社団法人桜蔭会会長 白木百合子様と、順次ご祝辞を賜りました。

続いて、創立150周年を記念し作成された新学生歌「憧憬(あこがれ)の」の披露、作曲家であり本学名誉教授の近藤譲先生による特別講演「徽音—音が開く知の伝統と未来

について」が行われ、お茶の水女子大学が歩んできた道を振り返るとともに、これから歩む未来を考える貴重な機会になりました。運営に携わってくださった多くの皆さまのご尽力に、この場をお借りして、改めて心から感謝を申し上げたいと思います。

こうして昭和100年の今年、お茶の水女子大学は新たな歴史を刻み始めました。明治の開化期に創立され、大正、昭和、平成、令和と進んできましたが、悠久と思われる時のながれの中でその厳しさを象徴する転換期となったのは、さまざまな意味でやはり昭和です。ここでは当時の困難や悲しみを振り返るのではなく、その昭和を力強く生きた二人の卒業生の歩みをたどり、本学の、そして皆さんのこれからについて考えてみたいと思います。

まずお一人目は、日本のキュリー夫人と呼ばれた日本初の女性物理学者である湯浅年子(1909~1980)さんです。湯浅さんは、1931(昭和6)年に本学の前身である東京女子高等師範学校(以下女高師)理科を卒業後、東京文理科大学(現筑波大学)物理学科

に入学。卒業後同校副手となり、1938(昭和13)年からは女高師助教授に就任しました。1939(昭和14)年にフランス政府給付留学生試験に合格、1940(昭和15)年に渡仏し、フデリック・ジョリオ・キュリー博士のもとでコレージュ・ド・フランス原子核化学研究所において研究を開始し、1943(昭和18)年には仏国理学博士号を取得しました。戦禍で帰国を余儀なくされた1945(昭和20)年から1949(昭和24)年を除き、亡くなるまでの長きにわたりコレージュ・ド・フランス原子核化学研究所およびオルセー研究所において、優れた原子核に関する実験的研究を行った、国際的に活躍した日本初の女性物理学者です。また、CNRS(フランス中央科学研究所)とJSPS(日本学術振興会)を繋いだ日仏共同研究の実現にも尽力しました。本学は、フランスと日本での彼女の足跡が次世代に受け継がれることを願い、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構(KEK)が日仏共同事業として運営するToshiko Yuasa Laboratory (TYL)の協力を得て、「湯浅年子賞」を設立しました。

次にご紹介するのは日本女性初の一級建築士となった浜口ミホ(1915~1988)さんです。中国の大連で生まれ、1933(昭和8)年女高師の家事科に入学し、住居学や建築製図を学びました。1938(昭和13)年には東京帝国大学(現・東京大学)の建築学科の聴講生となり翌1939(昭和14)年に初の女性所員として前川國男建築設計事務所に入所しました。1948(昭和23)年に東京・青山の自邸に「浜口ミホ住宅相談所」を開設し、1954(昭和29)年に日本女性初の一級建築士になりました。本学が新制国立大学としての歩みを始めた1949(昭和24)年に著した『日本住宅の封建制』では、格式主義の打破、家事労働の軽減、台所の見直しなどを提言し、「後世に残りうるような住居論に関する古典的名著」として戦後の日本の建築界に大きな足跡を残しました。なかでも彼女の提案によりステンレス流し台を導入した日本住宅公団のダイニング・キッチンが女性の家事労働の負担の軽減に大きく貢献しました。

若い学生の皆さんには少し想像しづらいかもしれませんが、二人の活躍した昭和は、

男女雇用機会均等法などまだまだ先の男性優位の時代でした。二人が女高師を卒業した当時は、日本で女性が学べる大学は、北海道帝国大学、東北帝国大学、東京文理科大学、広島文理科大学、九州帝国大学などに限られていました。向田邦子氏が女性を中心にしたちゃぶ台のある家庭生活をテレビの人気ドラマや珠玉のエッセイで綴った時代です。女性の科学者、建築家はほとんどいない、そんな時代にふたりは、自分の信念を貫き、険しい道を歩んだのです。

ちょうどこの原稿を書いている時、湯浅年子さんが、アジア人女性としてただひとり、エッフェル塔に名前を刻む女性科学者の候補に選ばれたという素晴らしいニュースがフランスから届きました。エッフェル塔は1889(明治22)年の建設以来、第1展望台の外側に科学者72人の名前が金文字で刻まれています。21世紀の現在まで全員が男性でした。この歴史的偏りを是正し、科学の発展における女性の貢献を公的空間で可視化することを目指し、昭和100年の今、新たに同数の女性科学者が加えられることになったのです。

二人は女高師でそれぞれ保井コノ先生、市浦健先生らの指導によって自分が生涯をかけて取り組むテーマを見つけました。湯浅年子さんが先駆者の一人として女性科学者の道を切り開いたのと同じように、浜口ミホさんは女性だけでなく男性も同じように家事、育児など家庭の仕事を担う社会の実現に大きな貢献をしました。幾多の困難を乗り越え、社会変革に寄与したイノベーターとも呼べるでしょう。今や日本では、女性の活躍そして社会を変革するイノベーションが求められています。お茶の水女子大学は、変化する社会の要請に応えながら人文科学、社会科学、自然科学の発展と卓越した人材の育成に邁進してきました。2年前には新学部、共創工学部を新設いたしました。これからも日本の女子教育を牽引する大学として、国内外の研究教育機関や産業界などとの連携をさらに強化し、知の創出と人材育成によって社会をリードする女性を育て・育つよう、探求し共感・信頼できる持続可能な未来を創成するために進化を続けてまいります。

2026年4月
お茶の水女子大学学長

佐々木 泰子



データ理解を促す 情報可視化

情報可視化で多様なデータを読み解く・共創する

情報可視化は、データを人間が理解し意味を見いだすために重要な技術です。科学技術から工学、芸術、人文分野に至るまで、幅広い領域で必要とされる情報可視化技術についてお話を伺いました。

基幹研究院 自然科学系教授

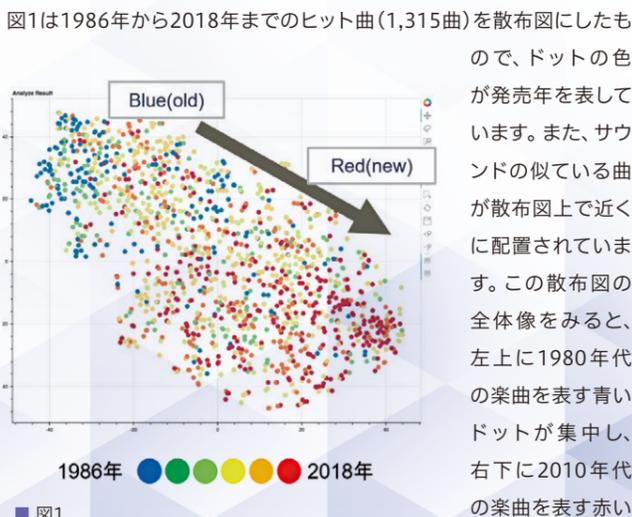
伊藤 貴之

現在取り組んでいる 研究内容について教えてください。

私はデータサイエンスの中心技術の一つである情報可視化の研究に長年にわたって取り組んでいます。情報可視化は日常生活や専門業務のデータを計算機の画面上に効果的に表示する技術です。データにもとづく行動が重要となっている現代社会において、情報可視化は人間がデータを理解するための重要な技術です。私はこれまでに、科学技術、ビジネス分析、社会分析、日常生活に関する非常に幅広い分野にて、情報可視化を用いたデータ分析の共同研究や産学連携に取り組んできました。

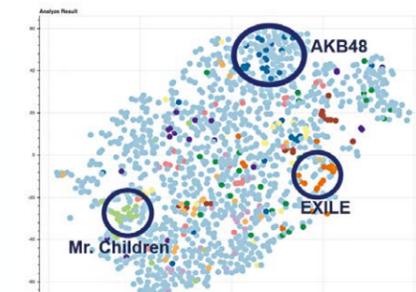
これまで所属していた理学部情報科学科に加えて、2024年から共創工学部文化情報工学科にも所属することになったのを機に、私は文化に関するデータサイエンスに着目しています。その中でも特に、学生時代から趣味としている音楽や美術を対象とした情報可視化に重点的に取り組んでいます。以下に2つの事例を紹介します。

1つ目は日本のヒット曲のサウンドの変化に関する情報可視化です。



■ 図1

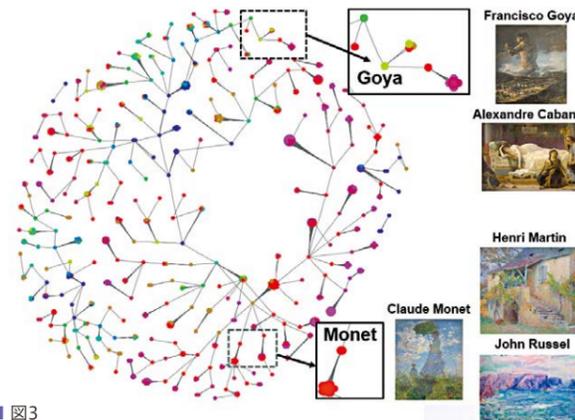
ドットが集中し、その間になだらかなグラデーションがみられるのがわかるかと思います。このグラデーションは、日本のヒット曲が30年をかけてなだらかにそのサウンドを変化させてきたことを示しています。この30年間のサウンドの変化の要因として、楽器や録音機材がデジタル化したこと、作曲技法が変化したこと、音楽鑑賞環境が屋外中心になったことなどが考えられます。図2は同じ1,315曲に対して色と配置を変えて散布図にした例です。図2において点の色は「データ中に多くの収録曲がある有名アーティスト」を示しています。この散布図をみると、Mr. Children、EXILE、AKB48などの楽曲が丸で囲まれた小さい領域に集中しており、これらのアーティストの楽曲のサウンドが長い



■ 図2

間にわたって変化していないことがわかります。多様なヒット曲を長期間にわたってリリースしているこれらのアーティストの楽曲が一般的なサウンドでできている、というのは意外に思われる方もいるかもしれません。

2つ目は歴史上の画家の絵画スタイルの継承推定に関する情報可視化です。各画家の作品の色彩スタイルに着目し、その色彩スタイルが先輩画家から後輩画家にどのように継承されている可能性があるかを情報科学的に推定し、その推定結果から得られる画家ネットワークを図3に示すように可視化しました。図3において色は年代を表しており、青および青紫は15~16世紀の画家、赤やピンクは20世紀の画家に対応します。大きな円になるほど多くの画家が同様な時期に同様な色彩スタイルを有していたことを意味します。図3右上ではフランシスコ・ゴヤを表す黄色い円が赤い円に接続されており、ゴヤの色彩スタイルが年代を遠く越えて新しい画家に継承されている可能性を示しています。その画家の例として図3ではアレクサンドル・カバネルを示しています。図3右下ではクロ-



■ 図3

ド・モネを表す赤い円が大きな赤い円に接続されており、モネの色彩スタイルが多くの画家に継承されている可能性を示しています。その画家の例として図3ではアンリ・マルタンとジョン・ラッセルを示しています。

情報可視化を用いた文化のデータ分析は、音楽や美術に限らず、例えば文学・歴史・芸能などにも応用が可能です。「文化の情報可視化」という研究テーマに今後も精力的に取り組むたいと考えています。

この研究に取り組んだ きっかけを教えてください。

私は前職の企業研究所にて、科学技術計算やインターネットデータ分析の目的で情報可視化のチームに入り、その面白さに惹かれました。データを画面に表現するという技術自体に数学的な素養と高度な情報処理技術が必要で、学問としての面白さに満ちている上に、非常に幅広い学問分野・産業分野との協業が可能である点が情報可視化の研究の魅力であると考えています。

本学に赴任して以来、指導学生には可能な限り自分の好きなことを研究に絡めることを勧めており、それを実現するための道具として情報可視化を利用することも勧めています。その結果として、音楽や美術の情報可視化、ジェンダー分析のための情報可視化といった研究も私の研究室の重要なテーマの一部になっています。

今後、期待されることは何でしょうか？

AIなどの先進技術が現代社会に浸透する中で、人間の役割が問われる機会が増えています。AIと人間との共創社会において、私は人間の重要な役割は意思決定にあり、そのためには人間が情報をより正しく理解することが重要であると考えています。この考え方に沿った情報可視化をより多くの学問分野・産業分野に展開することが私の研究の大きな展望です。

2024年に設置された共創工学部でも、情報可視化を用いたデータ分析を幅広い学問分野に展開して、さらなる共創を高めたいと考えています。建築や材料といった工学分野にも、文学・地理・歴史・芸術といった人文科学分野にも、データ分析を出発点としながらも意思決定をもって進める研究手法は有効です。情報可視化を駆使した今後の幅広い共創に大きな期待を寄せています。

研究のもっとココが知りたい!

Q > これまでどのような共同研究や産学連携を実施してきましたか？

A > お茶の水女子大学に赴任して以来、私は情報可視化に関連した非常に多くの共同研究や産学連携を実施してきました。創薬、生命情報、航空設計、電力管理、化粧品開発といった科学技術の共同研究にも携わりましたし、ビジネス分析、インターネット分析、人流分析、音楽流行分析といった社会現象分析の共同研究にも携わりました。最近では企業のAI運用を支援するための産学連携も進めています。

私は企業研究所出身で、社会に直接貢献する研究を多数経験した上でお茶の水女子大学に赴任していることから、産学連携には非常に積極的で、多数の企業からのお声がけをいただいています。「ぜひ女子大学と共同研究したい」というお声がけで始まった産学連携もあり、大変ありがたく思っています。

一方で、指導学生には自分の好きなことを研究するように勧めているのですが、その結果として私の専門性からはずれた研究課題を選ぶ学生もいます。そのようなときには可能な限り、学生の興味を満たす研究者を探して共同研究を申し込むようにしています。

Q > 本学が推進するジェンダード・イノベーションに関係ある研究にはどのような事例がありますか？

A > ジェンダード・イノベーションによって男性にも女性にも満足度の高い社会を確立するためには、性差分析による問題発見が重要なポイントとなります。性差分析を成功させるためには分析者がデータを理解する必要があり、その過程には情報可視化が非常に有用なツールとなります。この観点から私は、情報可視化を用いた性差分析こそがジェンダード・イノベーションの出発地点と位置づけており、いままでに2つの企業共同研究を進めました。

1つ目は映画推薦のジェンダーバイアス発見の研究です。AIによる推薦結果を情報可視化により評価した結果、女性消費者にのみ生じるバイアスが発見され、AIがもたらすジェンダーバイアスの可能性を観察することができました。

2つ目は空調の温感に関する男女差の研究です。情報可視化から発見した現象の例として、オフィスの夏には「薄着なのに暑いという人」「厚着なのに寒いという人」が女性に多く見られ、基礎代謝がその結果に関係している可能性が見られました。

今後多様な学問分野・産業分野での性差分析を推進し、ジェンダード・イノベーションに資する性差分析結果を発信したいと考えています。

低栄養と脂質栄養の 新たな視点

低栄養に潜む脂肪酸のチカラ

脂質は過剰摂取が問題視される一方で、不足した場合の影響はあまり知られていません。必須脂肪酸が不足すると、生体はどのように適応し、健康や病気にどのような影響を及ぼすのでしょうか。脂質栄養の重要性を明らかにする研究について紹介します。

低栄養における脂質栄養の重要性



必須脂肪酸欠乏による病態悪化の機序を分子レベルで解析

■ 図1

また、哺乳動物では必須脂肪酸が不足すると、体内で合成可能な脂肪酸を材料として、ミード酸という多価不飽和脂肪酸が代替的に作られることが知られています。私はこれまでに、ミード酸の合成に関わる酵素を明らかにしており、その成果をもとに、ミード酸が合成できないマウスや培養細胞を用いた研究を行っています。この研究で、必須脂肪酸が欠乏した状況下でミード酸がどのような役割を果たすかを明らかにしたいと考えています(図2)。



必須脂肪酸欠乏時に代替的に合成されるミード酸の機能解明

■ 図2

最近では、嚥下障害のある方が利用する介護食に着目し、魚に多く含まれる多価不飽和脂肪酸であるEPAやDHAが、嚥下機能に配慮した介護食では少ないことを明らかにしました。現在、リハビリテーション施設において、介護食を利用している方の血中脂肪酸プロファイルと低栄養、運動機能との関連を明らかにする研究も進めています。

その背景には、低栄養対策において、これまで主にたんぱく質摂取の重要性が強調されてきた一方で、脂質の「質」に着目した研究が十分に進んでこなかったという現状があります。介護食における多価不飽和脂肪酸の不足が、筋機能や回復過程にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることは、今後の高齢者を含む低栄養患者の栄養管理を考えるうえで重要な課題であると考えています。

この研究に取り組んだ きっかけを教えてください。

多価不飽和脂肪酸が植物では合成できる脂質である一方、哺乳動物自身はそれを合成できないように進化したことに興味を持ったことが、この研究に取り組んだきっかけでもありました。そして、哺乳動物では多価不飽和脂肪酸が欠乏すると、ミード酸と呼ばれる脂肪酸を代替的に産生する適応反応が存在することを知り、この現象が多価不飽和脂肪酸の生理機能やその進化的背景と深く関係しているのではないかと考えました。ヒトを含む哺乳動物が、栄養不足という不利な状況に直面した際に、生体がどのように適応し、その結果として健康や病態形成にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしたいと考えたことも、本研究に取り組むきっかけになっています。

今後、期待されることは何でしょうか？

高齢者の低栄養や嚥下障害のように、十分な食事摂取が難しい状況では、栄養の「量」だけでなく「質」に着目した新たな改善策が求められています。本研究で明らかにしてきた必須脂肪酸欠乏時の生体応答は、こうした制約のある環境において、脂質の観点から健康維持や機能回復を支える手がかりになる可能性があると考えています。さらに、この視点は高齢者に限らず、乳児期・成長期・妊娠期などのライフステージにおける栄養管理にも応用できる可能性があります。ライフステージごとに変化する身体的特性や生活環境を踏まえ、無理なく実践可能な食事のあり方や予防的な栄養介入を提案し、基礎研究の成果を実生活に結びつけ、社会に還元できたらと考えています(図3)。

ライフステージによる 必須脂肪酸欠乏時の病態応答の違い



脂質栄養の「質」に着目した予防的栄養管理の実現

■ 図3

研究のもっとココが知りたい!

Q 必須脂肪酸が不足すると体内で作られる「ミード酸」には、どのような役割があるのでしょうか？

A 必須脂肪酸が不足すると、生体はその欠乏を補うために「ミード酸」という多価不飽和脂肪酸を代替的に産生します。ミード酸は必須脂肪酸を十分摂取しているときはほとんど作られません。必須脂肪酸が欠乏すると、体内で合成可能な脂肪酸を材料として作られます。これは、細胞膜の構造や機能をできるだけ維持し、生体の恒常性を保とうとする仕組みの一つと考えられますが、欠乏下におけるミード酸の明確な生理的役割について十分に解明されていません。そこで私たちは必須脂肪酸が欠乏してもミード酸が合成できないマウスを製し、ミード酸が欠乏した条件下でどのような影響が生じるかを解析しています。さらに、外因的にミード酸を補充した場合に、欠乏によって生じた臓器機能低下が改善するかについても検討しています。これにより、ミード酸が単なる代替産物なのか、機能的意義を有する脂肪酸であるかを明らかにしたいと考えています。一方で、このような栄養不足への適応は常に生体にとって有益に働くとは限りません。例えば、がん細胞では、栄養が乏しい環境において通常は作られない脂肪酸を合成することで細胞増殖を維持することが知られています。このような代謝変化は「代謝のリプログラミング」と呼ばれ、がんの生存戦略の一つです。今後、ミード酸を含む通常は存在しない脂肪酸ががんにおいてどのような影響を及ぼすのかについても明らかにすることで、体を守るための適応反応と、病気を進行させる代謝変化との違いを明らかにしたいと考えています。

Q 介護食ではなぜEPAやDHAなど魚に多く含まれる多価不飽和脂肪酸が少なくなりやすいのでしょうか？

A 介護食は飲み込みにくさのある方が安全に食事を摂取できるよう、硬さや形状、粘度に配慮して作られています。そのため、誤嚥のリスクが低い食材が選ばれやすく、魚を使用する場合でも脂肪の少ない白身魚が用いられることが多い傾向にあります。一方、EPAやDHAを多く含む青魚は、加工や保存の過程で酸化しやすく、魚特有の臭いもあることから使用頻度が低くなりがちです。その結果、多価不飽和脂肪酸の摂取量が十分でない可能性があります。EPAやDHAのような多価不飽和脂肪酸は、免疫機能の調節に関わる栄養素として多くの研究報告があります。低栄養対策ではたんぱく質摂取が重視されがちですが、脂肪酸の質も低栄養に関わる疾患の病態改善に関与している可能性があります。今後は、油の多い魚の脂肪酸を介護食として安全に加工する技術の開発や、不足しがちな多価不飽和脂肪酸を補う食事の提案など、栄養面と安全性の両立を目指した工夫が重要であると考えています。

基幹研究院 自然科学系
教授

市 育代

現在取り組んでいる 研究内容について教えてください。

三大栄養素の一つである脂質は、エネルギー源としてだけでなく、私たちの体をつくり、正常に機能させるために欠かせない栄養素です。脂質は「摂りすぎ」が問題として取り上げられることが多い一方で、不足した場合にも体にはさまざまな変化が起こります。脂質の中には体内で合成できず、食事から摂取しなければならない多価不飽和脂肪酸があり、必須脂肪酸とも呼ばれています。必須脂肪酸は植物油や魚などに多く含まれており、乳児用粉ミルクにも配合されています。必須脂肪酸はエネルギー源として利用されるよりも、細胞膜の材料や、免疫機能、血管機能など健康を維持するために重要な役割を担っています。

一方で、脂質が不足したときに私たちの体は単に「足りない」と感じるだけでなく、限られた材料を用いて何とか機能を保とうとする仕組みを備えています。例えば、通常時はほとんど存在しない脂肪酸を新たに作り出すことで、環境の変化に適応しようとする。しかし、このような適応反応が常に健康にとって良い方向に働くとは限らず、状況によっては臓器の機能低下や病態の進行につながる可能性もあります。私の研究では、食事からの摂取が必要な必須脂肪酸が欠乏したときに、生体はどのように適応し、健康や病態にどのような影響を及ぼすのかについて、動物実験や培養細胞を用いて解析しています。これまでに脂質代謝に関わる遺伝子が欠損したマウスに必須脂肪酸欠乏食を与えることで、比較的短期間で欠乏状態を再現できるモデルを確立しました。この遺伝子欠損マウスを用いて、欠乏に対する初期の反応から病態が進行する過程までを解析し、脂質栄養と健康との関係をより明らかにしたいと考えています。現在は、脂肪肝や糖尿病、筋萎縮、がんなどの疾患において、必須脂肪酸欠乏が病態の悪化にどのように関与するのか明らかにする研究を行っています(図1)。

脇田
彩
先生基幹研究院
人間科学系
准教授

Profile

神奈川県出身。東京都立大学人文学部社会学科卒業。首都大学東京大学院博士後期課程単位取得退学。同大学博士(社会学)。立教大学社会学部助教、東京都立大学都市環境学部助教を経て、2020年4月に本学着任。



Aya Wakita

社会階層とジェンダーによる

不平等を解明する

Q1 研究テーマについて
お聞かせください。

社会階層とジェンダー等の属性による不平等について、主に計量社会学によって研究しています。親の学歴、職業、所得などによって測定される出身階層とジェンダー、その他の属性によって、人々の社会的地位や生活機会がどのように異なるかを明らかにすることを目的に、主に調査票調査によるデータを統計的に分析することによって、研究を行っています。

近年取り組んでいるテーマの1つとして、職業に関するジェンダー・ステレオタイプの働きがあります。同じ職業についている男女に対する人々の評価の違い(たとえば女性の医師と男性の医師、男性の看護師と女性の看護師に対する社会的評価が異なること)に注目して、職業に結び付いたジェンダーに関するステレオタイプ(たとえば看護師のような人の世話をすることは女性に向いているといった考え)の影響を検証しています。こうした研究によって、高く評価される社会的位置に女性が行きづらいという側面はもちろん、女性の多い領域や位置、活動に対する社会的評価が低いという側面からも、ジェンダー不平等を考えています。

また、地域社会に対する社会階層の影響に

についても、共同プロジェクトに参加して研究しています。再開発によって多くの人々の流入を経験した地域において、調査票調査だけでなく、住民へのインタビュー調査、地域活動の参与観察、資料の収集などを行っています。

日本社会では、2000年代以降、社会階層による不平等への関心が高まっており、近年ではジェンダー平等への歩みの遅さがよく指摘されるようになりました。公正な社会を考えるために、解明されるべき多くの問いがあります。研究を通じて、社会問題の解明やジェンダーに関わる統計・データの活用、教育にも貢献したいと考えています。

Q2 研究者を志した動機についてお聞かせください。

社会のあらゆる場面に関わるジェンダー秩序に関心を持ち、大学で社会学を学びました。当時から大学院に進学してジェンダー研究を専門的に学びたいと考えていましたが、社会階層論の講義を受けたことと、卒業論文で2000年代日本のジェンダー・バックラッシュについて調査したことも重要なきっかけでした。社会階層の視点の重要性に気が付いたことで、時間をかけて取り組みたい研究テーマが明確になり、

研究者を志しました。

Q3 お茶大生へのメッセージをお願いします。

ジェンダー不平等を扱った授業で、「みんなが共働きで子育てしなければいけないのか」というコメントをもらったことがありました。ジェンダーに関する社会状況が変容しても、現代なりの「正しい人生」があると感じる人もいるでしょうし、大学教育がそれを感じさせる場合もあるかもしれません。もちろん、自分や他者のライフコースに正解はなく、「正しい人生」を歩めない人もいますし、その「正しい人生」も変容していきます。

お茶大には、女性が授業やその他の活動を通じて比較的遠慮なく学べる環境があると思います。その学びを、「正しい人生」を決めるためではなく、世界を理解し、社会を問い直し、様々な立場から社会に関わることにつながってもらいたいと思っています。存分に学び、自信を持って歩んでください。

担当:今泉 修
人間発達教育科学研究所 准教授

Q1 現職に就いた経緯や仕事内容を教えてください。

就活の9割は東京で、メーカーや広告代理店など名の知れた会社を中心に受けていました。ある企業の説明会に参加するため、満員電車に乗っていた時。押しつぶされながら見た窓の外が多摩川に、故郷の川辺の景色が重なりました。「地元に戻るのも、ありかもしれない」。そう思って、富山の新聞社に就職しました。一言でいうと、逃げ帰りました。

「若者にウケるイベントを企画したい」と営業志望で入社したものの、配属は編集局。社会部記者として、教育やスポーツ、災害などの現場取材しました。印象的なのは2021年の東京パラリンピック。会場で、県勢が代表入りする車いすバスケ男子が銀メダルを獲得する瞬間に立ち会いました。コロナ禍で無観客となった試合の熱気をどう伝えるか、迫り来る締切時間と戦い脳をフル回転させたのを覚えています。

入社8年目の今は政経部で、富山の基幹産業である医薬品のメーカーを担当しています。業界は再編問題やバイオ医薬品の伸長などトピックが盛りだくさん。各社を回り、経営戦略や新商品の情報を記事にしています。「現場で働く社員が記事を見て喜んでます!」と感想をいただ

くことが多く、忙しくも楽しい毎日です。

地方紙の面白さは、時に習い事に励む小学生、時にメダリスト、時に数兆円の売り上げを誇る企業のトップと、多様な方々の話を聞けることです。「不正をただす」「社会課題と向き合う」という姿勢も大切ですが、最終的なゴールは「地域をエネルギーにすること」。富山で暮らす人々の背中を押す記事を書くのが、一番のやりがいです。

Q2 大学での経験はどう生きていますか。

ナチスドイツ史を研究し、プロパガンダ映画でユダヤ人がどのように描かれているか、映像を見て分析する卒論を書きました。生成AIなんて使えず、紙の独和辞典を繰って字幕や先行論文を地道に翻訳する日々。初めて触れる情報に根気強く向き合う力は、そこで身についた気がします。企業の決算書や分厚い行政文書、医薬系の難解なリリースからニュースを掘り出し、かみ砕く作業は、大学の研究とよく似ています。

また、写真部に所属し、学祭やゼミ旅行などで何万回もシャッターを切りました。この学報の表紙やOG紹介の写真を撮らせていただいたことも。決定的な場面、被写体が一番輝く表情を

逃さないという染みついた基本姿勢は、今も自分を助けてくれます。

Q3 お茶大生にメッセージをお願いします。

大学時代はまさか記者になるとは思っていませんでしたが、当時の経験が今につながっていると感じることは多々あります。「教授にレポートの欠点を突かれまくったおかげで、原稿を上司に見せるのが怖くない」「講義で心がけていたように、記者会見は必ず最前列に座って顔を覚えてもらう」。就職してから気づいた、意外な強みばかり。でも、共通しているのは、自分なりに本気で向き合った瞬間だったということです。

早くから就きたい仕事を見つけて動ける人は素晴らしいです。当時の私はそんな友達を見てよく不安に駆られました。ただ、それだけが正解ではないような気もしています。もし目標がなくても、なりたい自分が分からなくても、とりあえず全力で学び、遊んでほしいなと思います。何気ない頑張りの「伏線回収」は、どこかでやって来ます。

担当:大藪 海
基幹研究院人文科学系 教授

村田
美七海
さん株式会社
北日本新聞社

Profile

2018年3月、お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース卒業。同年4月、北日本新聞社入社。編集局社会部で遊軍・スポーツ担当を経験。22年4月から同局政経部で、製薬企業などを取材している。富山県出身。



逃げ帰った地元で見つけた喜び

Minami Murata

附属学校園からの お知らせ



生垣にこめた思い



いずみナーサリーには、28㎡ほどの小さな前庭があります。ここでは土や砂や石、草花で遊んだり野菜を育てたりと、0～2歳児の子どもたちが身近な自然にふれる親しみのある場です。その前庭と歩道の間に生垣があります。お部屋とお庭と外がつながる生垣の今をご紹介します。

いずみナーサリーでは、昨年11月に、歩道側に面した植え込みの植栽を一新しました。元々ここには、生垣として水やりせずとも枯れない丈夫で鋭い棘のあるピラカンサが植わっていて、小さな子どもたちの手にふれないように、その1点だけ気をつけていましたが、この春で3年目になる前庭研究を通して、季節を五感で感じられる環境の一つとして、歩道側の植栽にも思い及ぶようになりました。（*前庭研究については「今、改めて前庭を考える はじめのいっばい」のブックレットに掲載しています。ご興味ある方はどうぞお声かけください。）お茶大150周年記念事業「お茶大ポケット・ガーデン創生プロジェクト」にナーサリーも参加して、東京都都市緑化基金民間緑化支援事業、東京都すくわくプログラムの助成金やいずみナーサリー教育後援会基金をもとに、こんな場にしたい、というイメージを持ち寄りながら、少しずつ庭づくりを進めているところです。生垣として、さわるとよい香りがするニオイヒバを、手前には冬になると葉っぱが赤く色づくオタフクナンテンを等間隔に配置し、門扉の両側にはオリーブの木を植えました。オリーブの花言葉には「平和」「安らぎ」「知恵」といったものがあります。



保育室とつながる前庭



保育室からも野菜の生長を見ることができます。



すりガラスの一部を透明に。



お芋掘りやベビーリーフ摘み。おやつ焼き芋にしたりお味噌汁に入れていただきます。



毎年徴音祭一日にいずみナーサリー後援会主催の同窓会があります。卒園児が前庭でシロツメクサの種まきをしてくださいました。小さなクローバーの赤ちゃんがあちらこちらに。



レッドロビンの間で座って電車ごっこ



小さな葉山のぼり

子どもたちの暮らす場が安心できる心地よい場でありますように、子どもたちの育つ社会が平和でありますように、との願いを込めて植樹しました。植栽後、うまく根付かず元気がなくなった木もありますが、植木屋さんに教わりながら、ゆったりとした気持ちで、回復する力や育つ力を信じつつ、子どもたちと一緒にお話をし、その成長の過程を共に楽しみたいと思います。今回は歩道側の植え込みに子どもたちが好きな場所を選んで球根を植えたり種まきをしたりしました。「どこに植えようか?」に「パパとママと帰る道に!」と教えてくれた2歳児さんもあります。お迎えにいらした保護者の方と一緒に植えることもありました。「庭に花や木を植えることは明日を信じること」という先人の言葉が頭をよぎります。春には子どもたちの植えたお花があちらこちらで咲いていることでしょう。その日が今から楽しみです。

附属学校園での出来事 2026年1月～3月

Mar. 3

- 附属高等学校**
 - 期末考査 ● 新入生説明会 ● 答案返却
 - 白玉を食べる会 ● SSH生徒成果発表会
 - 1年キャリアガイダンス
 - 卒業式予行・歓送会 ● 卒業式 ● 修了式
- 附属中学校**
 - 音楽行事・歓送会
 - 卒業式 ● 学力テスト(1・2年) ● 修了式 ● 保護者会(1・2年) ● Spring English
- 附属小学校**
 - 授業参観 ● 保護者総会・かがみ会総会
 - 学年活動(1・5・6年)
 - 卒業おめでとうの会
 - 校外学習(1・2・3・4年)
 - 保護者会(1・2・3・5・6年)
 - 個人面談 ● 卒業式 ● 修了式
- 附属幼稚園**
 - ひなまつり ● PTA総会
 - 保護者全体会 ● 5歳児お楽しみ会
 - 卒業式
 - 3歳児・4歳児終業式
- いずみナーサリー**
 - ひなまつり ● 親子で遊ぼう会
 - 避難訓練
 - (抜き打ち、地震、室内待機または屋外避難)
- こども園**
 - ひなまつり・誕生会
 - 遠足(3歳児) ● 親子デイキャンプ(5歳児)
 - 新年度2号・3号新入園児保護者会
 - お別れ遠足(4歳児・5歳児) ● 遠足(2歳児)
 - 乳児園健康診断 ● 終業式 ● 卒園式
 - 第5回ワクワクデー(机磨き)
 - 避難訓練・安全指導(予告無)

Feb. 2

- 附属高等学校**
 - 入学検定・合格発表
 - 自主研究ポスター発表(2年)
 - 期末テスト(全学年) ● 防災学習(1・2年)
 - 保護者会(3年)
- 附属中学校**
 - 公開研究会(対面開催)
 - 附中生のお話を聴く会(4年)
 - 保護者会(4年)
 - 郊外園ジャガイモ苗植え等(5年)
- 附属幼稚園**
 - 豆まき ● 公開保育研究会
 - 5歳児親子で遊ぶ日
 - 5歳児遠足 ● 2月・3月合同誕生会
- いずみナーサリー**
 - 節分 ● 避難訓練・初期消火訓練(予告無、火災、主任不在、屋外避難)
- こども園**
 - 節分(豆まき)・誕生会 ● 避難訓練・安全指導
 - 表現遊びの会(5歳児) ● 3園合同研究会
 - 保護者会(3歳児)5歳児)
 - 新年度2号・3号新入園児健康診断・面談
 - 乳児園健康診断
 - 新年度3歳児1号一日入園

Jan. 1

- 附属高等学校**
 - 始業式 ● 大学入学共通テスト(3年)
 - 学力テスト(1・2年)
 - 保護者会(1・2年)
- 附属中学校**
 - 始業式 ● 保護者参観週間(1・2年)
 - 特別時間割期間(1・2年)
 - 課題発表セミナー(1年)
- 附属小学校**
 - 始業式 ● 保護者会(帰国児童・6年)
- 附属幼稚園**
 - 始業式 ● 春を祝う会 ● クラス懇談会
 - 教育実習事前指導(大学3年生)
 - 1月誕生会 ● 4歳児親子で遊ぶ日
 - 親子体操の会 ● 避難訓練
- いずみナーサリー**
 - お正月遊び・雪遊び・霜柱水遊び・足湯
 - 避難訓練(地震・食事中・室内待機)
 - 保護者会
- こども園**
 - 年初め2号・3号保育開始 ● 始業式
 - 誕生会 ● 乳児園健康診断
 - 新年度1号新入園児保護者会
 - 表現遊びの会(3歳児) ● 避難訓練・安全指導
 - 第4回ワクワクデー(佐世保独楽)



Ochadai GAZETTE

vol. 282
Spring
2026

発行日 / 2026年4月1日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

広報・ダイバーシティ推進課

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University